

箱根ヶ崎あだち流囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町箱根ヶ崎



箱根ヶ崎地区では、古くから一本柱を備えた山車を所有し、明治30年(1897)頃まで存在していたことから、明治期には箱根ヶ崎に囃子があったことが分かります。しかし、戦争などの理由により継承が途絶えてしまい、囃子の流派や伝承等について、言い伝えや資料等がなく分かって

いません。戦後まもなく鈴木繁雄氏(箱根ヶ崎囃子連初代会長)を中心に青年団の有志が集まり、高根(現在の高根囃子保存会)から師匠を招き「あだち流囃子」を習得しました。昭和26年(1951)頃に箱根ヶ崎囃子連が発足したことが契機となり、昭和28年(1953)4月、箱根ヶ崎十三ヶ町の町民による寄付をもとに、保管していた旧山車の部材(彫刻等)を使用し山車を建造しました。その後、地元八雲神社例大祭(三地区合同夏祭り)や町イベント、地元の祭りなどで囃子を披露しています。伝承している曲目は、「屋台囃子」「にんば」「かまくら」「しちょうめん」等です。